The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	次世代OPACの現況と展開への期待
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/14109
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

次世代OPACの現況と展開への期待

久保山　健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学　情報推進部 情報基盤課 (図書館システム担当)

<August 22, 2009>

大図研第40回全国大会(in 前橋), 研究発表

会場:　前橋テルサ

大阪大學

本日の骨子

1. 自己紹介
2. 関心を持ったきっかけ
3. 次世代OPACって?
4. 海外事例
5. 国内事例、検討状況
6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト
7. 今後期待すること、したいこと

大阪大學

1.　自己紹介

- 久保山　健　（くぼやま　たけし）
- 大阪府 寝屋川市 在住
- 現在の所属：　大阪大学 情報推進部
  情報基盤課　図書館システム担当（4年+）
- 経歴：　図書受入、雑誌全般、図書の契約、和漢書の目録
- 大阪大学附属図書館が使用している図書館システム：　NEC　LICSU-Web
  (*)契約期間：2007.3.～2012.3.

大阪大學

２．関心を持ったきっかけ (1)

◆ピッツバーグ大学図書館への出張

- ○期間: 2007.12月上旬～2008.3月上旬
- ○Pittでは、”たまたま”OPACの改良について検討中
- ○担当者へのインタビュー／複数の商用ソフトのデモを聴講
- ○米加の3大学図書館に調査出張

大阪大學

２．関心を持ったきっかけ (2)

◆次世代OPACに対する最初の印象

・個人的には従来型に慣れていた

↓

「違和感」

「どういうロジックで、この検索結果が返ってくるの???」

「なんか使いにくいなぁ」

２．関心を持ったきっかけ (3)

◆ 次世代OPACに対する最初の印象

そして・・・・・

「最近の学生は”検索”自体に慣れているだろう」

「検索スキルを利用者に求めるより、逆に初めてでも、概ね使えるような仕組みやインターフェースも必要」

「自分もGoogleを使う時、上の方に表示されているものを選んで満足しているでしょ！」

「よく見ると、使いやすそうやん」

「せめて!? 一般のWebサイト並みにしたい」　・・・・・・など

＜＜こう考えることで、”垣根”は越えました。＞＞

※使うための一定のスキルは必要

※適切な結果が表示されているか、たどり着けたかの検証も必要

※ユーザの意見も聞いてみたい

３． 次世代OPACって? (1)

◆以下のものが代表例

(1) シンプルな検索ボックス

(2) 絞り込み機能

(3) 関連語の表示

　他のサイトへのリンク

(4) 適合度によるソート

(5) コメント、レビュー機能（利用者参加型機能）

(6) リコメンド機能

※但し、特定の機能などを指すものではない

　基本的には、Web環境での技術向上の文脈かと思われる

３． 次世代OPACって? (2)

◆宇陀論文から

〇それらの機能は、

「ウェブ環境においてはごく普通」

〇所蔵資料のオンライン目録という定義の逸脱(変容)

「もしかしたらこの逸脱しているという点が「次世代」なのかもしれない 」

出典： 宇陀則彦. **利用者中心の設計** －次世代 OPAC の登場－. 図書館雑誌，2009，Vol.103，No.6

大阪大學

4. 海外事例 (1)

- AquaBrowser
  - 商用ソフト
  - University of Chicago
  - Queens Library, Jamaica, NY など

4. 海外事例 (2)

- VuFind
  - オープンソース
  - National Library of Australia など

4. 海外事例 (3)

- eXtensible Catalog
  - ・オープンソース
  - ・ロチェスター大学(USA)が中心に

大阪大學

5. 国内事例、検討状況 (1)

◆日本事務器(株)の "NeoCILIUS" （レビュー機能等）

・パッケージシステム

・東京経済大学図書館　など

〇検索ボックスはほぼ全ての画面にあり

〇絞り込み：　ソート順の選択機能

〇関連語、関連サイト
　外部DB連携 (NC, Amazon, Bookwebへ)

〇コメント、レビュー

(*)先駆的に機能の改善を図られている。今後にも期待

5. 国内事例、検討状況 (2)

◆ NEC (CMS) E-Cats, ver. 4

・大手前大学・大手前短期大学　図書館
・立教大学図書館　http://opac.rikkyo.ac.jp/opac/
・青山学院大学　図書館 http://www.agulin.aoyama.ac.jp/

〇クラスタリング　資料種別で (only?)
〇デザインの個別対応
〇他のサイトへのリンク
　Amazonの書影表示とリンクあり．図書・雑誌別で変えられる
〇Refworksへのエクスポート。EndNoteも?
〇雑誌の所在ごと詳細表示
　・未製本と製本を一括表示　・「詳細を表示/非表示」
〇ノーヒットの場合、他のサイトへのリンクボタンを表示させる。
〇電子ブックの書誌も登録できる(CAT-P, MARC21に対応)

大阪大學

5.　国内事例、検討状況 (3)

◆ 富士通　iLiswave-J

・東京電機大学　総合メディアセンター
http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/webopac/

〇絞り込み:「キーワード検索」には、ソート順の選択あり
結果一覧からも選択できる

〇関連語、関連サイト
バーチャル本棚(書誌検索結果一覧画面から「本棚」をクリックする)
→**Amazonの書影表示とリンクあり** (アフィリエイト付き)
あらすじと目次あり

大阪大學

5.　国内事例、検討状況 (4)

◆ NTT Data, NALIS

・鹿児島大学　図書館
http://kusv2.lib.kagoshima-u.ac.jp/opc/

〇絞り込み：　クラスタリング(!?)は資料種別で
　　クリック&選択で、並び替えもできる
〇関連語、関連サイト
　外部DB連携 (NC, Bookweb等へのリンクあり)
　書影有り(Amazon)　アフィリエイトなし
〇コメント、レビュー：　レビュー機能がある様子

大阪大學

5. 国内事例、検討状況 (5)

◆その他のベンダー

いろいろ動きはある模様（直接はお聞きしていません）

◆参考

次世代OPAC　事例集(国内) たたき台版

http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/334a401af64e603c59e3318c965a90f9

5. 国内事例、検討状況 (5)

◆大学図書館

・一部で、情報交換や、気運を盛り上げる動き (2008年度前半)

・個別の学習会で取り上げられつつある様子 その他、TRCライブラリー・アカデミー (2008年度後半)

・一部で具体的検討、学習会等、検討の進行 （2009年度前半）

<<情報交換、情報共有の必要性>>

知見、製品、アイデア、事例、ノウハウ・・・

大阪大學

6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト (1)

◆現況 (2009.8.10.現在)

○110のアドレス(グループアドレスを含む)

*)2月16日では62

- ベンダー/代理店関係者＝15 (8?社)
- 大学図書館/国会図書館＝84
- 公共図書館＝2
- 学術情報流通関係者＝1
- 不明＝11

大阪大學

6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト (2)

◆現況 (2009.8.4.現在)

○ メールの数量：155

○ 主な内容：

セミナーや製品情報、意見交換へ

○ ご紹介のサイト

http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/pitt_report/nxopac.html

大阪大學

6. 次世代OPAC情報交換用メーリングリスト (3)

◆悩み

○具体的な議論や方向性に発展しにくい(けど、兆しも?)

○ベンダー/代理店は発言しにくい(とお聞きしました)

○メーリングリスト自体は目的ではないが、メーリングリストから何が生まれるのかという不安 (期待)

○内容が蓄積しにくい。ブログ併用??

7. 今後期待すること、したいこと (1)

- ◆ブログか何かで事例集
- ○関係者の参考情報、国内状況の概観のため
- ○複数で維持管理したい
- ○次世代OPAC事例集(国内) たたき台版

http://blog.goo.ne.jp/kuboyan_at_pitt/e/334a401af64e603c59e3318c965a90f9

7. 今後期待すること、したいこと (2)

- 知見やアイデアの共用から機能向上へ
- 「利用者中心」の機能デザインをどう進めるか

○利用者分析の必要性

個別事例でも(一部ではされているみたいですが...)

*) 展開までの時間と作業コスト...

#機関リポジトリ分野などでは、グッズやインタビューや、いわゆるマーケティングも流行っていますが。

7. 今後期待すること、したいこと (3)

◆今後への期待

○情報交換・情報共有の枠組み自体は継続する価値がある(と思う)

○具体的な議論、事例報告

○リアルなセミナーでの議論

複数のベンダーが混じると面白そう

あるいは、具体的なテーマで議論

(例：書影表示やアフィリエイト)

大阪大學

7. 今後期待すること、したいこと (4)

◆書影やアフィリエイトをどうすべきか

○そもそもの目的

(1)書影そのもの

(2)豊富な情報利用

(3)アフィリエイト(による収入)

○Amazonでのパターン分け

(1)書影のみ表示　#ダメ

(2)リンク　(アフィリエイトあり／なし)

○”利益誘導”とならないために

・複数書店にリンク!?

・アフィリエイトの比率を入札。どのように？

7. 今後期待すること、したいこと (5)

◆“利用者中心”へ

OPACは、

- ●カード目録や目録規則、入力規則の延長にあるのではない
- ●使ってもらうための情報だということを再認識したい

7. 今後期待すること、したいこと (6)

◆導入パターン

・パッケージのみ

・パッケージ＋海外商用製品

・パッケージ＋海外OSS

(参考：某大学図書館検討資料)

7. 今後期待すること、したいこと (7)

- 期待する大学図書館

(おまけ：宣伝)

ロビーにて好評発売中

久保山健　　***売り切れごめん***

「ピッツバーグ大学図書館における約3ヶ月の滞在型研修」

8.1　次世代OPAC

非常にいいタイミングだった。…滞在中にベンダーのデモも4回程あり、その内2回に参加することができた…

(大学図書館問題研究会　研究会誌．32号，2009.8)

大阪大學

ご静聴ありがとうございました。

続きはディスカッションで

大阪大學